

科目名	生物学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 1学期	
区分	基礎分野						
担当者	菊池 皓	資格	教諭	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>生物の体の構成や機能、及び生命維持のしくみ等を学ぶ。          専門基礎分野における生化学、病理学、解剖生理学等の学習の基盤とする。          生命の起源や個体の発生、遺伝等について学び、生命の特徴を理解し、生命倫理についても考える。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私たちヒトのからだの働きや人間生活とどのように関連しているかがわかる。</li> <li>2. 学習を通じて生物学の本質の一端にふれ、知識にとどまらず、自然を科学的に考える・探求する力を身につけることができる</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. } 生物の多様性と共通性</li> <li>2. }</li> <li>3. エネルギーと代謝（ATP）</li> <li>4. 光合成と呼吸</li> <li>5. 遺伝情報とDNA</li> <li>6. DNAとRNA</li> <li>7. 体内環境としての体液</li> <li>8. 腎臓と肝臓による調節</li> <li>9. 神経とホルモンによる調節</li> <li>10. 自律神経と内分泌による調節</li> <li>11. 免疫</li> <li>12. 適応免疫</li> <li>13. }</li> <li>14. } まとめ</li> <li>15. 筆記試験・まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>改訂版 新編 生物基礎 数研出版 令和4年          プリント配布</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	論理学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	基礎分野		講義		1	1年 1学期	
担当者	永野英明	資格	教諭	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>国語の常識を身につけ、文章読解力や表現力を高める。          情報社会・知識社会に対応し、「自分の考えを文章できちんと表現できる」能力を養成する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学的思考の基盤となる論理的思考・判断力を深めることができる。</li> <li>2. 自分の考えを文章できちんと表現できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>毎時間課題プリントを使用します。          前半は、主に書くことに必要な知識の習得を目指して講義します。          中盤以降は、多様な文章に書き慣れるための講義をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理的文章とは</li> <li>2. 情報の明確な伝達</li> <li>3. } 表現のルール</li> <li>4. }</li> <li>5. 新聞のコラム・道徳教育の推進</li> <li>6. 原稿用紙のルール・序論の書き方</li> <li>7. 小論文の型・超高齢社会</li> <li>8. 筆記試験・小論文</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>プリント配布</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	情報科学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	基礎分野		講義		1	2年 1学期	
担当者	園部理恵子	資格	インストラクター	実務経験	有・無	時間	20時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>情報処理の基本的考え方及び情報処理システムについて理解し、コンピューターの基本的操作を身につける。</p> <p>ワードを用いての文章入力、エクセルを用いての表計算等の実践を行う。</p> <p>インターネットの概略を知り、インターネット検索を行う。</p> <p>これらの学習した情報処理や活用方法をもとに、看護研究に活かしていく。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報処理の基本的考え方、情報処理システムを理解し、コンピューターの基本的操作ができる。</li> <li>2. ワードを用いての文章入力、エクセルを用いての表計算等の実践ができる。</li> <li>3. インターネットの概略を知り、インターネット検索を体験できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. } Windows・PowerPointの説明</li> <li>2. }</li> <li>3. } インターネット検索・資料収集</li> <li>4. }</li> <li>5. } 作成</li> <li>6. }</li> <li>7. }</li> <li>8. } 作成・発表</li> <li>9. }</li> <li>10. }</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>プリント配布</p> <p>パソコン使用</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出(WordとExcel)、プレゼンテーションなどで評価する。</p>							

科目名	保健科学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義			1	2年 通年
区分	基礎分野						
担当者	井門恵理子	資格	インストラクター	実務経験	有・無	時間	15 / 45時間
担当者	高橋正行	資格	講師	実務経験	有・無	時間	15 / 45時間
担当者	明比君江	資格	健康運動実践指導者	実務経験	有・無	時間	15 / 45時間

授業の目的・ねらい

身体各骨格筋について理解し、身体各部の動作と影響について理解を深める。  
 現代のわが国の健康問題について理解を深め、身体運動が心身の健康にもたらす効果について概説し、現在及び将来の健康生活を考える契機となることを期待する。  
 さらに、スポーツに関して心理学的側面からの理解を深め、今後のスポーツ活動にできるようになることを期待する。  
 運動についてはエアロビを取り入れ、学習の効果を図る。  
 運動処方概略を学び、疾病を持った対象への具体的な運動の方法について理解する。  
 グループで創作ダンスを考え、発表することによって、対象に合わせたリクリエーション活動に活かす。

学生の到達目標

1. 身体各骨格筋について理解し、身体各部の動作と影響について理解することができる。
2. 運動・スポーツによる心身への影響について理解できる。
3. 心身の健康にさまざまな影響を及ぼす日常生活から生活リズムを見直す。
4. グループで創作ダンスを考え、発表できる。

授業概要（授業計画）

<井門恵理子>

1. 自分にあった運動について、フィットネス、メディカルモデル、心臓血管フィットネス
2. }
3. } エアロビ、ストレッチ
4. }
5. 運動と筋肉、運動処方とは
6. }
7. } まとめ
8. 筆記試験

<高橋正行>

1. 心と体のバランス
2. ストレス緩和の運動とは
3. 運動がメンタルヘルスに与える影響
4. 食生活とメンタルヘルス
5. 睡眠とメンタルヘルス
6. 飲酒とメンタルヘルス
7. たばことメンタルヘルス
8. 生活リズムとメンタルヘルス
9. 終講試験・まとめ

<明比君江>

1. 有酸素運動、ストレッチ
2. }
3. } エアロビクス
4. }
5. }
6. } 創作ダンスのグループワーク
7. }
8. 創作ダンスの発表

教科書

「心も体も健康に」  
プリント配布

古賀義彦

社会保険出版社

参考書

プリント配布

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験、創作ダンスのグループ発表などで評価する。

科目名	心理学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 1学期	
区分	基礎分野						
担当者	橋田生子	資格	臨床心理士	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>一人の人間として、また専門職である看護師として、心理学の基本的知識および理論を学び、自己および他者についての理解を深める。</p> <p>授業では主として、知覚、性格、適応、発達などの領域をとりあげ、人間の心理と行動について学習し、人間理解のための手がかりとする。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の概要について理解できる。</li> <li>2. 心の病と心理療法について理解できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の概略</li> <li>2. 心理学とは、心とは（1）－心の構造、意識、無意識、前意識</li> <li>3. 心理学とは、心とは（2）－ジョハリの窓、自己開示、フィードバック</li> <li>4. 知覚（1）－主観的輪郭、反転多義図形</li> <li>5. 知覚（2）－錯覚、大きさの恒常性、文脈効果、文化差</li> <li>6. 性格（1）－性格の構造、エゴグラム実施</li> <li>7. 性格（2）－性格検査法、エゴグラムによる自己の性格分析</li> <li>8. 適応（1）－欲求と欲求不満、欲求不満耐性</li> <li>9. 適応（2）－自我防衛機制</li> <li>10. 心の病と心理療法（1）－統合失調症、気分障害、神経症</li> <li>11. 心の病と心理療法（2）－心身症、PTSD、精神分析療法、行動療法</li> <li>12. 心の病と心理療法（3）－来談者中心療法と積極的傾聴</li> <li>13. 生涯発達（1）－生涯発達心理学の視点、発達の規定因</li> <li>14. 生涯発達（2）－各発達段階における特徴と課題</li> <li>15. 筆記試験、まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>プリント配布</p>							
<p>参考書</p> <p>その都度、紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	英語	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	2年 1学期	
区分	基礎分野		資格	高校教員	実務 経験	有・無	時間
担当者	別宮由紀子					有・無	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>保健医療活動や看護活動の場でますます必要とされる英語の能力（表現・理解）について学習を積み上げ、国際社会への積極的参加をも見通し、幅広い教養とコミュニケーション力を養う。</p> <p>病院内の場面を英語でどのように表現し、理解していけばよいか、基礎的知識を中心に、聞き、話し、読み、書く技能を磨き、更なる学習へとつなげる能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語のコミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけることができる。</li> <li>2. 看護に必要な英語の基礎的知識を身につけることができる。</li> <li>3. 看護職として国際的視点を持つことの重要性について考えることができる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者を迎える バイタルサイン測定</li> <li>2. 痛みのアセスメント 症状</li> <li>3. 体位変換／移乗 診療科目</li> <li>4. まとめと医学英語の構造 日常生活援助</li> <li>5. 与薬 排泄（排便／排尿）</li> <li>6. 慢性疾患 急性期／手術室</li> <li>7. 妊婦健診 まとめと医学英文読解</li> <li>8. 筆記試験・まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>Talking with Your Patients in English アニメで学ぶ看護英語 成美堂 2022</p>							
<p>参考書</p> <p>演習プリント</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	教育学	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	2年 1・2学期	
区分	基礎分野						
担当者	酒井 あい	資格	講師	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>教育改革と声高に叫ばれているが、そもそも教育とはどういう営みののだろうか。この問いについて、一つの答えを導き出すというよりは、子ども、親、教師、社会などの視点から、しかも具体的な実践から考えていきたい。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義、方法について理解できる。</li> <li>2. 家庭における教育について理解できる。</li> <li>3. 学校教育について理解できる。</li> <li>4. 社会教育について理解できる。</li> <li>5. 現代の教育問題と課題について理解できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私の中の教育&amp;教師</li> <li>2. 子どもとは？育つとは？</li> <li>3. 教育とは？ 教えることと学ぶこと</li> <li>4. 家庭教育を考える ①VTR視聴&amp;ディスカッション</li> <li>5. 家庭教育を考える ②そのまとめ</li> <li>6. わが国の学校教育を考える ①制度概説</li> <li>7. わが国の学校教育を考える ②VTR視聴&amp;ディスカッション</li> <li>8. わが国の学校教育を考える ③そのまとめ</li> <li>9. 教育問題を話し合い、考える ①学校とは</li> <li>10. 教育問題を話し合い、考える ②いじめなど</li> <li>11. }</li> <li>12. } 自己学習</li> <li>13. }</li> <li>14. }</li> <li>15. 筆記試験・まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>プリント配布</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							